
教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ★家庭学習と読書推進のポイント教えます★

☆☆☆ このメルマガの内容とは？ ☆☆☆

このメールマガジンは、教育振興運動全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の推進にあたり、実践事例の紹介や意見交流を行うために、各実践区事務局、県内小中学校、市町村教育委員会、県内指導主事・社会教育主事、そのほか関係者の方々に送信しているものです。

< 目 次 >

- 1 【事例紹介 12】 「沢内地区実践区（西和賀町）」《家庭学習》
「飯豊小学校（北上市）」 《読書推進》
 - 2 【家庭学習】 きょうすん、くなんせ。
 - 3 【読書推進】 「じゃあ、読もう！」と
「いっしょにやろうよ、できること！」
 - 4 【教振は今】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 5 【みんなの声】 ペっこ言い隊
 - 6 【編集後記】 あつしのひとりごと
-

- 1 【事例紹介 12】 「沢内地区実践区（西和賀町）」《家庭学習》
「飯豊小学校（北上市）」 《読書推進》

今回は、北上地区から2つの事例を紹介します。

- (1) 沢内地区実践区の沢内中学校では、学校が中心となって「Gノート（グローイングアップ・ノート）」を活用し、下校後の生活について生徒自身に考えさせる取組をおこなっています。帰りの会で各自が考え、班内で相互に意見交換を行うことで家庭学習時間は着実に増えてきました。保護者の家庭学習への関心も高まってきています。

この様子は、『いわて希望大作戦』でテレビ放映されます。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_sawauchi.pdf

- (2) 飯豊小学校では、先生方が読み聞かせたり、先生や児童による推薦図書紹介、図書委員会や読書ボランティアの積極的な活動や親子読書活動と、学校・児童・家庭・地域がそれぞれに充実した取組を展開しています。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_iitoyo.pdf

- 2 【家庭学習】 きょうすん、くなんせ。

「きょうすん、くなんせ。」・・・ある家具屋の店先で、ひとりのおばあさんが、「きょうすんって言うのは、とってもいいもんだそうだから、その“きょうすん”ひとつくなんせ。」と言って、机を指差したそうです。

教育振興運動が始まって間もない頃、ある町では「まず、子どもたちに勉強机を与えよう」という具体的な実践目標が立てられました。その結果、屋根裏部屋や押し入れが子どもの勉強部屋に変わり、みかん箱が勉強机になりました。

「きょうすん、くなんせ。」は、その頃のエピソードです。かわいい孫に勉強机を買いにきたおばあちゃん。子どもたちの学習環境を整えよう・・・その思いで始まった「教振（きょうすん）」の盛り上がりを感じます。

さて、振り返って今の子どもたちの学習環境はどうでしょう？

家庭学習をおこなうには、一定時間、必ず子どもが勉強できるような「時間」と「場所」を確保することが必要です。当たり前のことですが、家庭学習の習慣が身につけていない子どもをみると、この当たり前のことが出来ていません。

子どもが勉強をする「時間」、その「場所」で、家族がテレビを見ていれば、勉強が長続きするはずありません。テレビゲームも同じです。勉強する場所が、居間や食卓の場合、親や家族もその「時間」はテレビや雑談はやめて、自分の仕事や読書に取り掛かりましょう。

親がテレビを見たいからと親の都合で「子ども部屋（個室）」に押し込まないで下さい。親の近くにいと、子どもは安心するものです。子ども自身が必要に感じるようになったら、自然と居間や食卓を離れて勉強をするようになります。

勉強する「場所」をつくることを考えれば、子ども部屋にテレビもパソコンも必要ありません。携帯電話も同じことです。テレビ、パソコンは居間に置いて共同で使い、携帯電話は、必要時以外は親が預かるくらいの配慮が必要です。

今の世の中、子どもを誘惑するものがたくさんあります。テレビもパソコンも携帯電話も便利な機械ですが、それに生活を支配されてしまう人もたくさんいます。誘惑を取り払い、落ち着いて勉強に迎える状態をつくることを、勉強する「時間」と「場所」をつくる・・・と言うのではないのでしょうか。

21年度の「全国学力・学習状況調査」や「岩手県学習定着度状況調査」の結果をみると、特に中学生の学習時間が少ないという課題が今年も残されています。

資料1⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21hikaku.pdf>

資料2⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21gakusyujikan.pdf>

部活動後におこなわれる平日の「スポ少活動」と「家庭学習」のバランスを、学校・家庭・指導者（地域の方）で話し合い、勉強するための「時間」を確保してあげる、これも子どもの学習環境を整えるひとつでしょう。

今、机や部屋といった学習するための「物」を与える“きょうすん”から、子どもの時間と場所という「形のないもの」を確保する“きょうすん”へ。

3【読書推進】 2月1日～14日は、岩手県の読書週間！

「じゃあ、読もう！」と「いっしょうにやろうよ、できること！」

「子どもの読書年」から10年がたち、今年は“本を読む国・日本”づくりを目指して国会が決議した「国民読書年」です。読書に関わる様々な催し物が行われ、読書推進にとって追い風となる1年となることでしょう。

2001年に「子どもの読書活動推進法」が制定され、また子どもの読書活動を推進するために、2002年からは5か年をかけて学校図書館の蔵書を増やす「学校図書館図書整備5か年計画」が進められてきました。

国は、学校図書館の蔵書充実のために約650億円を予算化し、2007年以降も毎年200億円以上を投じてきています。地方交付税であるために、実際に図書購入費として使うかどうかは市町村の判断に任されていますが、本来の趣旨を理解している市町村の学校図書館では蔵書が充実してきたはずです。

学校教育の新学習指導要領では「何を問われているのかを理解し、それに対して自分の思いを伝える」というコミュニケーション能力を全教科にわたって高めていくこととしています。当然ながら、読書はとても大事な要素となります。

国会が決めたから、法律だから、学習指導要領に定められたから読書を推進しなければならない・・・ということではありません。本が好きな皆さんの活動を国が後押しをし、みんなでやろうという雰囲気を作ろうとしているのです。

「じゃあ、読もう！」を合言葉に、この追い風に乗っていきましょう。

また、岩手県内の幼稚園、小・中・高等学校、専門学校、大学の連携組織であるESD円卓会議では、「テレビ・ゲーム・パソコンを消して読書する共同行動」を提案しています。昨年は、岩手県内の164園校がその活動に参加しました。

今年も5月30日（日）から6月5日（土）の1週間を県内一斉取組期間とすることとしています。皆さんの学校・地域でも、図書委員会や教育振興運動の活動のひとつとして取り組んでみませんか。次年度計画を立案する際、検討してみてください。

合言葉は、「いっしょうにやろうよ、できること！」です。県内の全小中学校でいっしょにやりましょう。

詳細は ⇒ <http://esd.iwate-u.ac.jp/entaku/index.html>

4 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(振ちゃん) いよいよ、来週放送だね。

(教ちゃん) ええ、「めんこいテレビ」と「テレビ岩手」で放送される『いわて希望大作戦』の話ね。

(振ちゃん) うん。取材は、いつなのかなあ。

(教ちゃん) あら、取材ならもう終わったわよ。振ちゃんも出たかったの？

(振ちゃん) ガッピン！・・・終わっちゃったの？

(教ちゃん) 西和賀町の沢内実践区・沢内中学校と奥州市の前沢地区教育振興運動推進協議会がテレビで紹介されるのよ。

(振ちゃん) 教、教ちゃんは、出たの？

(教ちゃん) もちろん。ちゃんと、出演の出演依頼が来たわよ。沢内中学校の中学生も、とてもいい顔で映っているわ。前沢区の会長もとてもいいお話をしてくれているし・・・。テレビ放映が楽しみだわ。

(振ちゃん) ……。

(教ちゃん) 詳しい放送のスケジュールは、次の通りなので、皆さんも見てくださいね！

【めんこいテレビ】

2月3日(水) 21:54~22:00

5日(金) 18:55~19:00(再放送)

【テレビ岩手】

2月7日(日) 21:54~22:00

8日(月) 18:55~19:00(再放送)

【県内の10ケーブルテレビ】各局2回以上の放送

5 【みんなの声】ぺっこ言い隊

(1) あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

メルマガ、いつも読ませてもらっています。「家庭学習の充実」は、どの学校も共通の悩みではないでしょうか。「家庭学習と学力向上は、教育の両輪である」と何かの研修で教わったことがあります。この両輪をうまく起動させないと、前進できない。この前進とは「思考力の育成」ではないかと思われませんが、どうでしょう……。

なんだか、すごいこと言っていますが、とどのつまりすべてが「基礎基本の確実な定着」なんですよね。家庭学習で2重ノートを繰り返す。漢字の練習とって、漢漢漢・・・字字字……。○付けは、鉛筆ではなく赤ペンで。美術の家庭学習……。これまでいっぱい子ども達に教わりました。

書かれているように、定着には個人差があり、それを補うものとしての

家庭学習の位置づけ……。しかし、家に帰ると、手も洗わずにTVゲームにまっしぐら。親はおとなしく2階で勉強しているものと思い込み……。しょうがないですよと他人事の親御さん。

なんだか悪しきスパイラルに入っていくような感じです。メルマガに書かれているようなシステムに移行していかないと……。やっぱ、学校・家庭・地域・子ども自身・行政がともに考え、「家庭学習」の取り組みせ方を工夫する時ですよ。(H町 Mさん)

(2) いつも楽しく拝見しております。

冬休み終盤に子どもたちの宿題チェックをしたら、一番下の小学1年生の子の工作が未着手であることに気づき、「色付きろうそく」を作ることになりました。

ろうそくを溶かして絵の具を混ぜ、それをコップやビンに入れて冷やして固めるというものです。

さて、ろうそくを溶かしていたら、子どもが「緑の絵の具がない」と私に言ってきました。すぐを買って欲しいとも。「黄色と青を混ぜれば緑になるでしょ」と私が言うと、「そうだった」と納得し、「うすい緑や青っぽい緑が作れて楽しいね」とのこと。

24色入り絵の具なんていうのもありますが、自分で色を作る楽しみも覚えてくれたようです。(H町 Cさん)

メルマガの感想や日頃思っていることをどんどんお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

6 【編集後記】あつしのひとりごと

「どういて目クソは、目頭から出るがかのう。クソは尻から出るもんじゃき。こっちが目尻っちゅわんとおかしいぜよ。」……と大真面目に語る坂本龍馬。NHK大河ドラマ『龍馬伝』の第1回に登場する一場面です。

姉の乙女は「おま、ふざけちゅうがかー！」と怒るが、その理由を答えられない。私も、テレビを見ながら「そう言われれば、そうだよな。」と納得していました。

第2回の一場面から、もうひとつ。

仲が悪い2つの村の農民を率いて、堤作りを命じられた龍馬であったが、仲たがいがばかりの農民に「毎年のように氾濫するこの川に堤を作ることは、人の命がかかちゅうがじゃき。」と訴え、作業をおこなって欲しいと土下座をして頼み込む。

当たり前のこと、考えもしていなかったことに「なんで？」と疑問を持つ龍馬。大きな目的を達成させるために、小さなことや私事にこだわらず、行動する龍馬。そんな龍馬が、マンネリ化した幕府政治に維新の風を吹かせるのですね。

皆さんも地域の“龍馬”になって、教育振興運動に新しい風を起こして下さい。今のような閉塞感が漂う時代こそ、“龍馬”が求められているような気がします。

ちなみに、私の息子は高杉晋作から、「晋作」の名をいただきました・・・。

⇒ 第14号は、2月9日（火）配信です。

★教育振興運動の資料・「教振メルマガ」のバックナンバーは、こちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index.html>

★このメールへの感想、ご意見・ご要望は、こちらまで。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

★子育てに迷ったら、ひとりで悩まず「子育ていわてケータイサイト」に。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kt-shien/>

～～～配信元～～～

* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

⇒ 学校新聞の裏面に掲載しての各家庭への配布、回覧板を使っての自治会・子ども会への回覧も大歓迎です！

～～～